

溶融・結晶制御技術による産業廃棄物の無害化と有効活用  
(事前評価)

質問

回答

F委員	いつまでに処理をするのですか？	H16までに、2.7万t処理予定です。その他については分析、処理法の提案を予定しています。
	将来のためにも今後もがんばってください。	
A委員	産廃はどのような感じで放置されているのですか？	3～10mの深さにかけて、木くずの混じった汚泥があります。プラスチックも混じっています。比較的均一の状態で存在しています。場所によってVOCもあります。
C委員	産廃が何であるかわかれば、後は処理方法はわかるのではないですか、そこからさらに技術的な物は必要ないと思うのですが。	処理方法としては、溶融、焼却、肥料化などを提案しています。今後は業者と検討します。溶融法などは技術的に対応する問題もあります。
	他機関との連携などは考えていないのですか？	難しいです。 処理技術はあります。しかし、その後の有効活用の技術の確立などがセンターとしての役割だと思います。
G委員	人手不足のように思えるので、体制強化をしたほうがよいのではないですか？	所内評価でも不足としています。今後は所内公募制をやってみたいと思っています。あと二名増員したいと思っています。
C委員	サンプル採集について行政レベルでの調整をすればよいと思うのですが。	そのようにしております。
D委員	ガラスよりも結晶が強くなるのはなぜですか？ また、結晶を6hかけて成長させる必要はあるのですか、もっと効率化できると思うのですが。	熱処理により強くなります。処理時間は鉄系のものはアルミを入れると短縮できます。